



反古伏羅部卷四

目錄

聖人ノ夢奈志  
 竿竹而望於加津  
 雀者百成而茂躍不忘  
 里河連波社浮瀬茂河連  
 喧嘩過而乃捧知木利木  
 人與人入物有使  
 人與入物有使



反古伏羅部卷四

目錄

反古侏羅部卷四

作者愚鈍齋

人と人物ハ有はる

出家のお女房とてのまをへおつても乞食の  
 ちりー銭とて中もなう一入形なう海尺は  
 へん半少儀もをさうい詰く小家も達所が  
 物事とてやや町のまをへらまらるるハ  
 市敷伏は室小も幕を面あり屋敷も郡  
 野長樂寺の同帳ハをり一あし東をへハよを  
 けりまらるる居ハ入のれ終ハ近敷統の  
 目ハ京中ノ戸銭さつてあまらうとありくば

物のるゝのやうふもや一隠居してなり  
 合子なるこゝろに初めハ小女一人はけい  
 そろくといふ中少少かち糸りよ女の体  
 のさきなりとて小奴使にまよふおの  
 の娘人申致しをきいし一ハ一目はく一  
 目はくいなりとれハいふまゝそらよさ  
 空とのぐれぬ者古氣はめさよ京一お  
 かつそまよは遠すと引とり暫く  
 三四人あや一海城お肩成む移りよの  
 やとを入しそ女房めととさくむれ毎

やもめうらゝの葉女房おてもゆもさ  
 なるいとさゆはせらうく女房や一  
 おなとハいしれを雇脱紙して流  
 せ一およ違てハさてく雇人突よ  
 らがど年よりハ尻うきイを活と身  
 やうましくさゆ人親一のうさ  
 さうさゆゆものを呼とらもさく  
 中ら者そ子ちよをく丹波の小奴  
 ひ廻し小女はもあ流ハかぢうい  
 るいさうさう窓挿花も花をけハ

七つと編みも了出〜あ〜バ急便  
小なり〜我身を十の半小立遣人  
入物者いもか〜ハ減べ〜

喧嘩過ての持乳切来

武王ハ紂を伐て馬城毒止の湯よと

形〜ぐらも袋又收ておこすよは

運とぬゆ氏腰後〜しい密をさる和尙

千飯城と〜い半後ての口くを其悪口

我銭に〜つあや〜よあも油のよ申

〜す家ゆ方て治置城捕てゆ〜

〜子ハ此城あせしゆれをばすれ只

いあそとのりおち合〜ハ船指の奴

垢よさんとの大坂であ〜の月さワ〜

〜の咄あてぬ甲〜い何〜

〜の道八十町ねちあ〜禪流て死今

日ハハッ石雷よを〜ハ角力城負〜

〜ハ肉〜逆つ〜十徳杖捨て〜

海ぬも〜ち〜ちを跡を跡を〜

子ま結記地内疾念小神の法權尾の手

か切有修りのを種さは布族の代は亭

反正... 卷之四

一 此の如きよきうんて移る意のらよら  
 一 ちりつづつとあの大坊より僧入道と  
 罵りしを姑息と高買を以て佛  
 一 下を廻せきんのうきあんとざら  
 一 中毎の高は出るく瓜や先居高買は  
 仕給り置人よきそかく厚な瓜夜廻り  
 一 余の火事かくりたは用んる思もあ  
 一 渡ハ如き照きて衣改仕て行系守は  
 一 天らの喧嘩過てのあはうち切は

一 里のまばらな浮瀬もわび  
 一 自性の佛はあしてしと極楽も阿是覺性  
 一 の成佛は六の芭蕉花さくあは殊はあら  
 一 ど瓢箪かゝ駒はあど日中よち所之樂は  
 一 石雨の令う落てもたなくもきて極楽性  
 一 生は浮しむ報善の念佛読経を勤て  
 一 浮世よまよしあありと有る地は極楽ハ  
 一 ゆるやうあを死して西かハ瓜あら  
 一 くのの渡をも身は捨く極楽ハもあは  
 一 有る持を産はるも心結をくけハ

とかあつれくさつてはるに病を  
 あぬ小らねーやうごん指のうまは  
 基も成して人よ代のやとを入りか  
 まるは織袴て告方うまの服もも  
 毛と虫ね小とひー指成一日くと  
 つりぐひ物を高とあひくーて人の鼻  
 を成けり汁を指て入る子の子  
 かこの目せれをほりけね工の煙草入  
 一としてを秘ぬ高ひ方を早めて  
 指をおとすちてあをれへゆぬといふ

暗閑と習者よ配つてすの徳よれて  
 那の家よ二夜の病を治系よ方成ら  
 治るもの子息よ甚あけ包念と苞く  
 かこののはらちのりともまな及ま  
 は肩の痛も甚よらうりも己り  
 ちのり新う酔きをれは高買ハふ  
 う病着てあききれ娘の子猫を公  
 口よ賞其報を明くくくは  
 里わんかき治せてのをも  
 候方成捨て持保ハ念ぬし  
 暗る

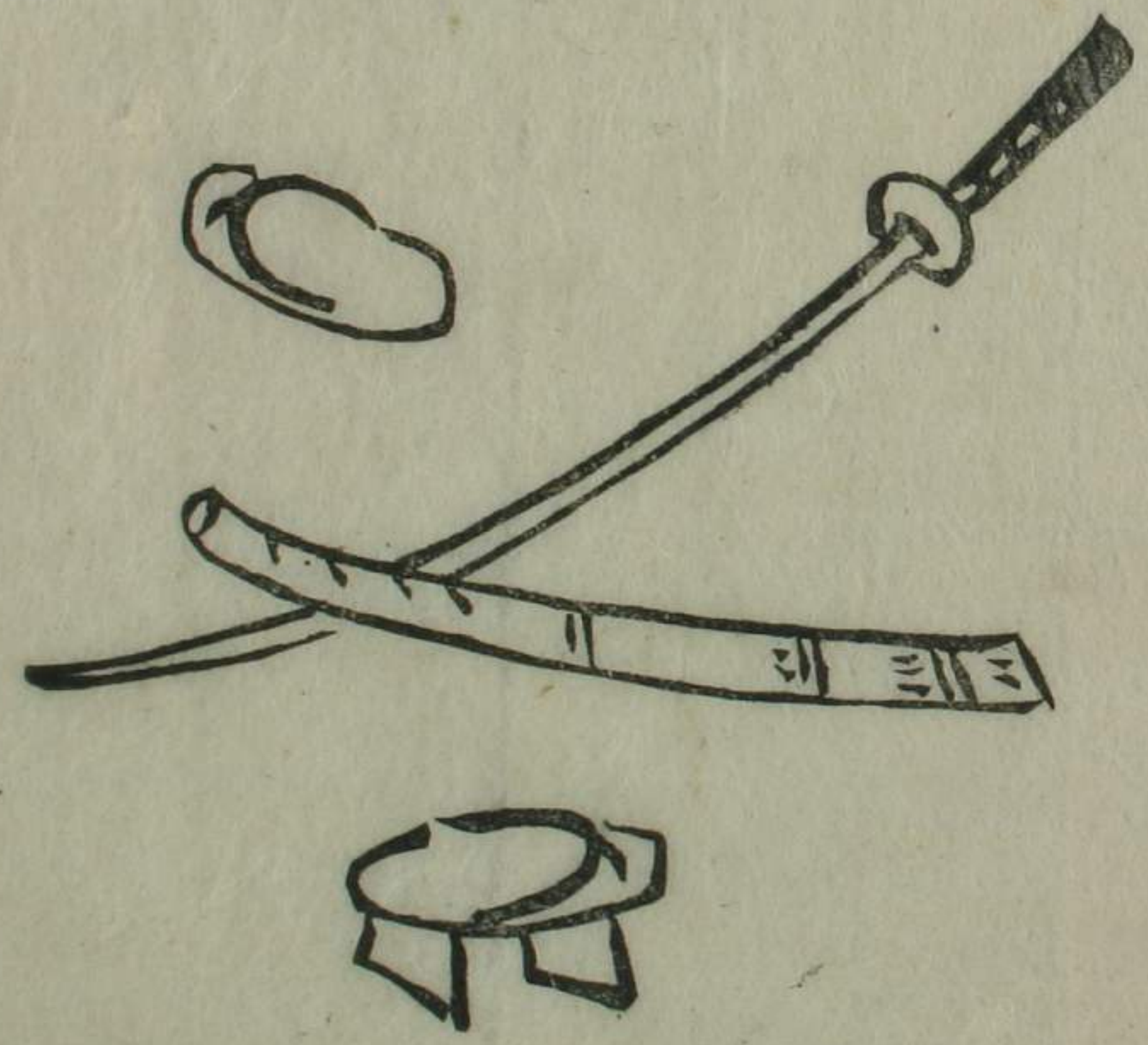
樂よき事とてしほ徳も有との成るぬ處  
人の身代を爲す草舎舎やりにあはれ  
かひはほす

雀八百よめても懼たれ

老萊り舞のても若しとらふ字よらう次  
なせ七十よめ教又う獨ちて聲もなきの  
忠るれい答へ終も天志紙別佛の道よ  
入る惜身命のまやうかまは両面の小沖  
海英海へしと終いこひ管のまもぬ子  
く新滋のあゆと一日く黒くしあする

よとをくひ佛の道にまらまはしと善  
花つよとては用ぬ若るれと母醜姿ふも  
孫子も恥と和尚女へあるりまらハちと  
いや子の坊さハ女房子の終と母色有に上  
いよ海が可愛よ面白目付かかハ腰は杖  
そゆくとまいし成し顔ハ青紙お波くの  
研やうなう杯ば人よ少うん紙まをトと  
子考の男坊のあざうくハむさいのささない  
のとほよまよとひをとけと母らとけぬ  
証入焼のいぬ三衣よ身代とせとせ





精進と出で心臨終まは者紙あのみ  
て道は入是本より成は腰婢は福れ  
あのみ後の後を流るるりよあも申子代が  
やうらるる付は流指夫婦が顔りおと  
ききく吃る吞気急也手もせど婢が片敷  
よ心は福つぐな味悪さうよあらけは  
お焼は小不審さうし毎夜光又子孫を  
けり川女この言の老焼猶死達後猫が  
せりてあうる危角巴が敵の敵をん  
の福まうらして思ふ福は厚よぬくと

ふの雀うをと申 戯ておぐせらつこ

干竹ひて四をカ津

天の言もれども背をまらぬ地は厚き流  
どぬぬれ足さ一足さ一足の守何事やて  
と人下紙を者小から柄子をとりの  
流はは合しとそは苦笑又ゆの誰ははは  
合とすは合てお出たしとあゆうとあふこと  
同車紙らめく一巻く一指とひあふ  
一合とてい道をい人とこ一車ハ柄くあむ  
のんそよハ甚不は合とて紙細音の方

一層人妙れあつさりごとく國有るまふ  
 て廻り人のうわさ傳へて轉我事  
 世間少て百倍ふりよとてはるが次を  
 和言誰う家へ奉うたれそあつ初ハ后凡  
 ていし人の事ふはほごあそくひ我神の  
 や少れハ人の口ゆもからさつ人ぬら  
 とおひしまてハ外から悪いや恥しいを  
 念あつんの中しハ恥からも恥もあるい  
 井の中の蝦蟆がうれが天下取たうハは  
 てハ悪のいや色々の湖をハ教ふよて理

田代よまきハ幕う安の旨のいゆれきよま  
 ぬしよま活然ハれ字作て甲をあらうは  
 出終くるぬ事ハうまひよま思とたら  
 はすぬ言沙うやくまきとれ我智急  
 のまきけ年を延しをらの甲代から  
 落さんとは天晴 完電乃軍ん事く

聖人小夢

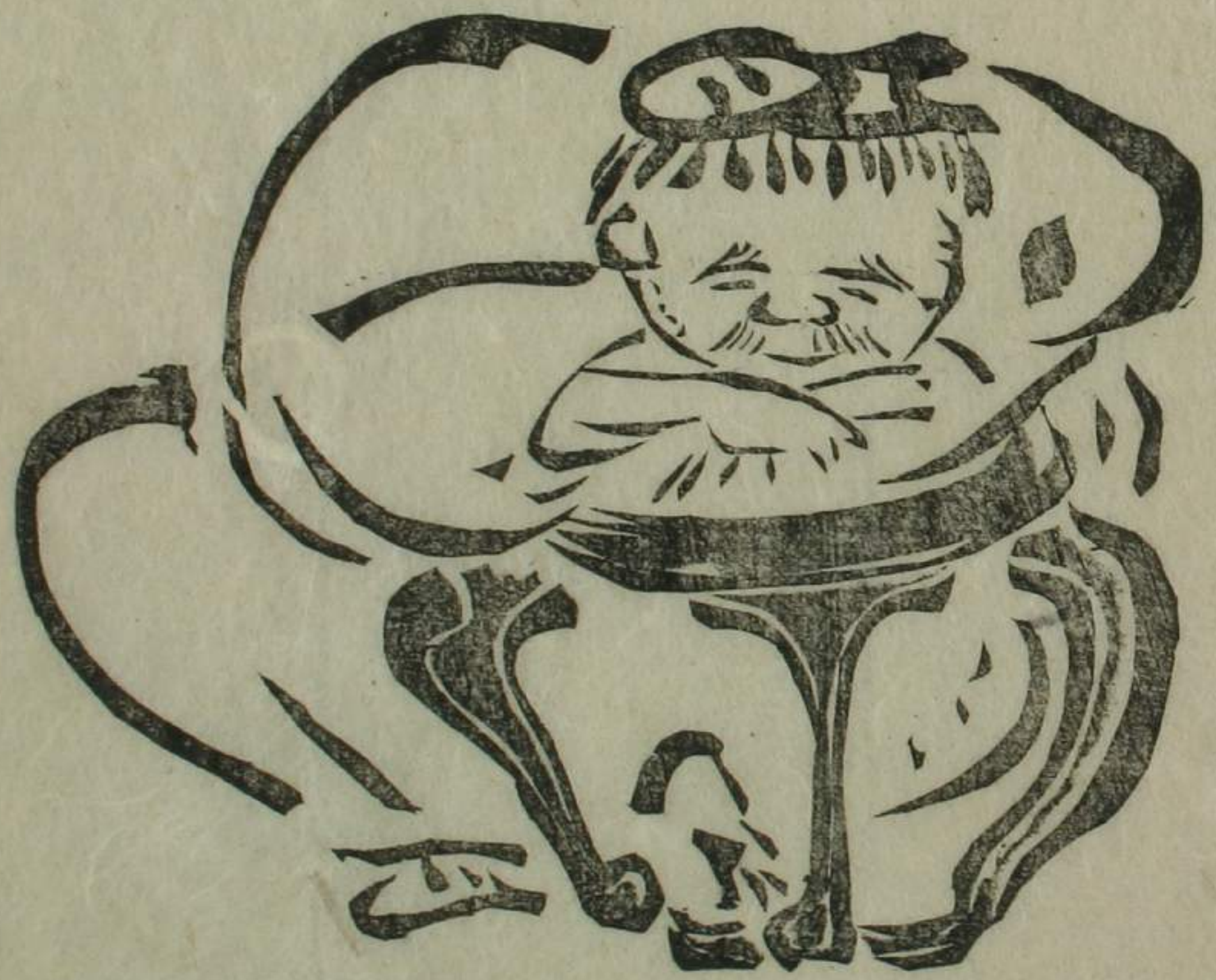
周禮ホホの夢を説宗の昭公ハ夢よま  
 る成莊子ハゆりハ蝶もハ孔子ハ毎夜周  
 成夢よえ西極のるよま奠せらあ

聖王の毎夜く夢又て入るは神の御も  
 隨くゆ先を候と聞尹子く夢又て海  
 仁者ハ夢又て義者ハ夢又て智者ハ夢又て  
 徳を好むものハ三つハ夢の紋又て夢恨又て好  
 るものハ善又て悪ハ夢の善又て悪の心者  
 其儀を嗜人の期も思案又て是のいと  
 るくふ折来一々夢のさりて跡を記す  
 十貫の釈海朝一とて三百圓の備儀  
 急にはハほる馳のありやうよしひ延  
 松月よ後もあらん真福ちのとて成つ

て思ふくぐひ彼の石く大石の垢をす  
 眼力くくそく長服西へ出入るる車人よ  
 てまゝも言まよと茶字の上下くか  
 合点くくくられやうにと神仏一日  
 吾日又てくくく教ハ成終くゆくの  
 松くもかても大ま清合ハ先神松く  
 城上布袋の冷るを掃まり人よ  
 ハ神くの御利生奇妙吐く大の御  
 松月元日過まてうくくくくくくく

出—わろまれのふち一備—ゆえにきや  
 うま言てやん返半、試ん後、ゆえに  
 あく—もき、おつ、ぬ掛、ぬえ  
 ひちご、俄、け、ん、人、も、成、つ、も、不、成、と  
 猪、立、し、も、お、小、工、面、の、あ、て、い、き、く、備、く、  
 ま、頼、氏、七、百、り、言、て、や、い、く、お、く、  
 ぎ、ぬ、紹、介、信、報、十、枚、の、文、池、試、す、ま、  
 千、鐔、二、枚、の、友、浪、百、貫、目、の、大、層、補、一、所、の  
 田、代、試、つ、も、の、娘、氏、中、身、の、身、の、致、て、か、  
 月、ハ、潰、も、着、い、て、も、不、苦、報、の、何、小、試、て

廻—田代ハ賣て、報、ま、し、て、き、く、信、居、喜、ま、  
 中、成、試、建、て、り、と、大、工、試、時、て、の、三、層、試、は、  
 物、娘、の、迅、幸、松、風、わ、り、つ、も、た、な、次、狐、の  
 嫁、入、何、辛、令、五、而、あ、ら、り、つ、せ、て、の、ら、下、い  
 以上と、出、て、お、ら、狐、一、試、中、長、老、小、の、身、い  
 試、五、十、建、く、上、人、と、立、然、お、ら、も、千、報、の  
 女、足、が、あ、後、い、自、身、は、各、居、を、建、ら、り、  
 手、形、の、報、さ、切、く、は、返、さ、ま、し、て、受、も  
 一、折、—京、ハ、坊、が、ぬ、と、を、乃、く、く、わ、を



卷之四

卷之四

三



卷之四

卷之四

三

ひ踏眼ハゆめて出来新々一掃さるるも  
 の冬口ハハいづべ氣とる猶ハ尻をかき  
 ぎく〜きまひを〜の口僻報を物氏も  
 望のつらさやもまやのと触り報子のやう  
 小豆の小林助ゆり報借もせよ人のをん  
 不さきこ〜遠ハ大らひまら〜の  
 夢子薫々ぬも〜として移をん〜  
 履成身者子之正月初夢は加々宿士の  
 心よすく〜磨り側よ居〜と夢は深  
 牙代せら入て一門一家成よし夢は深

よ〜てぬく〜西川〜繪本よ合  
 女房氏乃悪夢成てハ雲白夢をま  
 夢まやといせのゆめハ〜とせのま  
 心あふふ〜と〜も夢ま  
 ちや然ハ〜を因果よづり人の証を  
 ぎいてハ〜あらあてがひ我方の事よぬと占よ  
 う也能の偶の石確が崇は家のさ〜り  
 が化〜と〜に迷老悦のが〜  
 いそ〜と〜も  
 ても〜ら〜のふち〜

冥は死して断念はまらざる苦もれど毎二夜  
 の食臥まらうのけ菜喰縁ハ嫁成いぢり  
 の奇童自満目自酒二午ふかご一腰  
 月あひとの夢のそ成夢と毎朝と百年も  
 けらん虫蛇のきとくを解のしうねさう  
 けを今昔清き流ハ縁が代までおいてぬ  
 火入ぬむまごが代は人のもよ入もあつて一  
 夜の善悪の夢も人百一生涯の夢も智  
 事なれ成人をこの成かくのめくとあ  
 てふをそのあふ人の物成勢をよま

事成むまの夢もこやうあも相のうらま  
 あり遠くを悔もこひひよ成あり縁  
 ハ心く夢をさし蝶が花子う花子が中  
 根ハよよと縁ハむひの縁盤うらら  
 かひうららて根入取うらういとあ成縁  
 一もうららがひの畧語さうハ商人の  
 戒ゆ事もそ縁のこときわのは合め  
 もは合うと縁よあつてぬのしとら  
 かり思案のははるも益よきとぬ  
 けやう夢うららひとくら成る成



の夢のふききりうんひとて今言えら  
雅ぬまのうんをの夢はまゝいをきえく  
客外は夢はさうと暗くは八蔵とうして  
佛の物のついでをハ火完入夢気面を  
今の洗きく空をくは夢中くともを  
ういの酒は酔て液を子鳥足人の底残  
きくくそつやうの夢はまもつははれぬ  
こそ夢をく迷いさくともいあはれ年  
及古ははれぬまにぬ

安永二年己春新板

京師書林  
堀川通高辻上ル丁  
河南四郎兵衛

